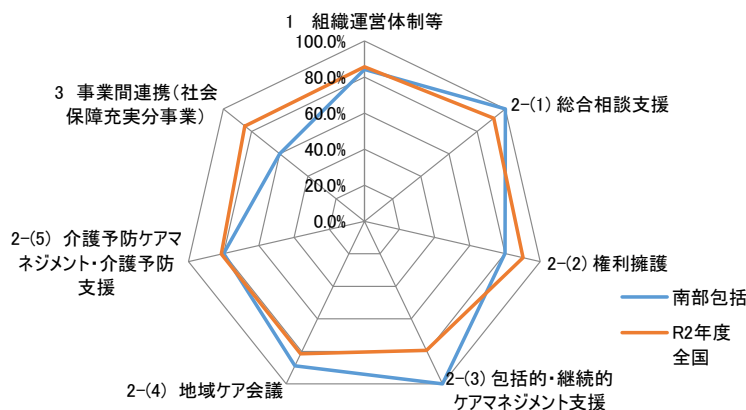


図：瑞浪南部地域包括支援センターの取組状況（全国平均との比較）



	瑞浪南部 地域包括支援センター	R2年度実績 全国（センター）	(参考)R元年度実績 （センター）
1 1 組織運営体制等	84.2%	85.6%	84.2%
2 2-(1) 総合相談支援	100.0%	91.8%	90.8%
3 2-(2) 権利擁護	80.0%	90.3%	89.2%
4 2-(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援	100.0%	79.4%	80.9%
5 2-(4) 地域ケア会議	88.9%	81.5%	82.5%
6 2-(5) 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援	80.0%	81.4%	79.5%
7 3 事業間連携（社会保障充実分事業）	60.0%	84.8%	89.3%

各事業評価結果に対する自己評価及び課題等

1 総合相談

相談内容は、介護保険申請やケアマネ、居宅サービスなど介護保険関係が55%、認知症関係が11%、高齢者福祉サービス関係6%、困難ケース、権利擁護関係の順でした。相談者は、家族が最も多く、医療機関、ケアマネ、市役所、本人、民生委員の順でした。ケアマネジャーからの困難ケース相談は、本人はもとより、キーパーソンに問題がある場合が多い傾向があります。

2. 権利擁護支援

高齢者虐待については、医療、福祉の視点を入れて2人体制とし、2年度は2件対応しました。権利擁護関係相談は9件あり、うち1件が市長申し立てに至りました。東濃成年後見センターとは個別会議、権利擁護相談の活用、適宜のアドバイスなどで連携しています。また、行政、社協の日常生活自立支援事業等とも適宜情報共有や連携して対応しました。

3. 包括的・継続的ケアマネジメント支援

高齢者が在宅生活の継続ができるよう、ケアマネジャーに対する困難ケースの支援に当たるとともに、コロナ禍においても、市内の主任ケアマネ連絡会を再開し、オンライン会議も導入できて、不安を軽減することができました。民生委員からの電話相談や、来所される方も複数あり、担当地区の包括支援センターとして認知していただいています。

4. 地域ケア会議

困難ケースの個別ケア会議を6回実施しました。実数は5ケース（独居3，親子2）。見守り体制の構築、成年後見制度手続き中の施設入所困難、地域の中の精神疾患に対する偏見や不安、ケアマネジャーがいろいろな役割を担い負担が大きい、などの課題がありました。行政の会議への参加依頼、内容の報告を随時行っています。

5. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援

ケアプランは毎月150～160件台で推移しています。新規利用者は、包括での担当を優先しますが、状況により居宅事業所に委託しています。包括センターへの実地指導結果を踏まえ、令和3年度の居宅支援事業所との委託再契約の機会に、2包括と委託先事業所との業務確認をすることができました。

6. 事業間連携（社会保障充実分事業）

コロナ禍により、医療関係者との連携は最も困難となり、企画していた勉強会の中止もありました。感染予防対策のもと実施した認知症サポーター養成講座や、介護予防教室等で地域に出向いたが、参加者は定員を割ることがありました。地域づくりにつながる活動は、生活支援コーディネーター連絡会議への参加が中心となりました。